

---

## アジア石油化学工業会議（APIC2015）の開催結果について

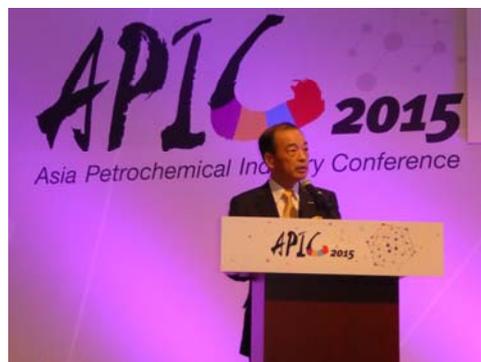
---

第 36 回アジア石油化学工業（APIC2015）が、5月7日(木) - 8日(金)、韓国ソウルの COEX Convention Center にて、“Turning Threats into Opportunities for the Asian Petrochemical Industry” 「アジア石化産業の脅威を好機に」をテーマに、韓国石油化学工業協会（Korea Petrochemical Industry Association）の主催により開催され成功裏に幕を閉じた。

参加登録者は38か国から1,181名にのぼり、日本からは大型連休直後にもかかわらず221名の参加を得た。シェールガスや石炭化学の現状を踏まえつつ、APIC7地域の石化産業がどのように競争力を維持していくかの課題や足元の原油安について様々な意見が交わされた。

第一日目の5月7日はコンサルタント会社4社によるケミカルマーケティングセミナーが、二日目の8日は総合会議、運営委員会、製品別分科会が開催され熱心な議論や聴講がみられた。

総合会議ではホスト協会である韓国石油化学工業協会（KPIA）の許壽永(ホ・スーヨン)会長の挨拶に続き、日本石化協を代表して浅野会長による挨拶が行われた。APIC7協会会長挨拶のあと、クルト・ボック BASF 会長とウワイド・K・アルーハレシ SABIC 副社長によるキーノートスピーチが行われた。



総合会議で挨拶をする浅野会長

運営委員会では各協会代表により今回 APIC2015 の共同宣言が採択され、次回 APIC の開催地としてシンガポールが決議された。また日本石化協より、日本での「循環炭素化学」の提唱と取り組み、および前回の APIC で起案した APIC7 協会での人材確保ネットワークの具体的な仕組み作りの紹介を行い、他6協会の賛同を得た。

一方、製品別分科会では、コンサルタント会社からの報告をもとに各製品のトピックスが参加者によって共有された。

締めくくりには和やかなフェアウェルパーティーが盛大に開かれ、参加者間の懇親と共に次回再会までの健闘を誓い合った。